

昭和61年
8月
台風10号

大洪水から 小貝川

25年

市長対談 「安心安全のまちづくりに向けて」

ゲスト 国土交通省 下館河川事務所 ^{とみおかひであき} 富岡秀顯 所長

今年、昭和61年8月の台風10号による「小貝川大洪水」から25年目を迎えます。150年に一度の大洪水と言われ、その被害は旧下館市の面積の4分の1を冠水させ、下流の旧明野町でも谷原、大林地区を泥水の海に変えるなど、未曾有の大災害となりました。

そこで、大洪水から25年の節目として、国土交通省下館河川事務所の富岡秀顯所長をお迎えし、「安心安全なまちづくりに向けて」をテーマに、吉澤範夫市長と河川環境の整備や各種防災施策の状況などについて語っていただきました。

吉澤市長—今年、小貝川の大洪水から25年目となりました。

私の住まいは明野地区の高台にありますので、直接の被害はありませんでしたが、川に囲まれた町ですので、主要な道路が遮断されたり、川沿いの地域では自衛隊による救援を受けたりと、大変な被害だったと鮮明に記憶しています。

富岡所長—昭和61年8月のときは、この筑西市のところが、1日雨量で350ミリを記録しました。ここがジャストポイントで降ったわけです。市の資料には150年に1回の洪水と記されていますが、それは3日間の雨量での評価です。実際には1日で降っていますので、過去のデータを整理すると、700年に1回の

大雨だったのです。

吉澤市長—昨年は奄美諸島で1日に600ミリも降りまして、市内でもゲリラ豪雨とよばれる大雨がしばしば発生しています。最近、異常気象の影響なのか集中的に降る傾向



被害が最も大きかった小貝川と大谷川の合流地点
現在は母子島遊水地として整備されている。

向にありますね。

富岡所長—はい、今後も集中的な大雨によって洪水が起こる可能性を危惧しています。河川事務所でも堤防の高上げや腹付け（堤防幅の拡大）などを全区間で順次行っています。「61年洪水」後の小貝川と鬼怒川の堤防は大幅に改善され、昔から比べると非常に流れやすくなりました。

しかし、土地改良等の進捗によって田んぼにあふれた水が全て川に流れてくるので、水位はぐっと上がるわけです。もし、どこかで決壊したときには「61年洪水」以上の被害が起こるかもしれません。

吉澤市長—ますます水防活動の重要性が高まっていますね。本市では「地域防災計画」を



昨年5月22日に母子島遊水地で実施された水防訓練を視察する富岡所長と吉澤市長。



国土交通省 下館河川事務所
富岡 秀顯 所長

とみおかひであき・群馬県出身・56歳
八ッ場ダム工事事務所副所長、関東地方
整備局河川環境課長、同地域河川調整官
などを歴任。平成22年4月から現職。

下館河川事務所

茨城県、栃木県にまたがる鬼怒川約100
km、小貝川約80kmの合計約180kmを管理。
関東地方整備局管内で最も長い区間を担
当している。

「川辺の風景が似合うまち」と
いう印象を受けました。特に
中心部には勤行川が街中を流
れ、シルエットになった筑波
連山からのぼる朝日が美しい。
私の大好きな風景です。「61年
洪水」でかなりの地域が水没
したと聞いても、今の景色か
ら想像はできませんね。しか
し、現実には目を向けると、河
川の堤防の高さはみなさんの
家々よりもかなり高い。つま
り潜在的な危険性が高いとい
うことを決して忘れないでほ
しいと思います。

そこで、今年「61年洪水」
を振り返り、かつ未来につな
がる治水対策を考える年にし
たいと考えています。25年が
経過し、洪水の恐ろしさや被
害の重さも忘れられつつあり
ます。特に若い人たちにはピ
ンとこないかも知れませんが。
災害に対する意識を高めるた
めにも、洪水や避難に対する
理解度を確認する調査なども
実施したいと思っています。

自治体への情報提供を強化し 水防対策をサポート 富岡所長

策定し、避難勧告などの発令
基準を定めたり、水防・救援
対策などを講じたりしていま
す。毎年6月には母子島遊水
池で水防訓練を実施しており、
昨年は河川事務所のみなさん
にもご参加いただきました。
また、浸水想定区域を記した
「洪水ハザードマップ」を作成
し全戸に配布しました。平成
19年度からは3か年計画で防
災行政無線を市内全域に整備
しています。それから昨年は、
消防団に県内初となる「機動
部隊」を結成しました。重機
などの資格を持つ団員が中心
で、大規模災害時に力を発揮
してくれると思います。

富岡所長―筑西市は大きな災
害を経験していますから、防
災の意識が非常に高いですね。
洪水は早めに避難すること
が最も大切です。河川事務所
では近年、自治体への情報提
供の強化に力を入れています。
事務所と市役所を光ケーブル
で結び、リアルタイムで河川
の水位や洪水・氾濫警報など
をお伝えできるようにしてい
ます。避難指示を出される吉
澤市長さんともホットライン
で結ばれていますから迅速な
対応ができると思います。ま
た、災害発生時には、河川事

的確な情報収集と早めの避難 指示で被害を最小限に 吉澤市長



吉澤 範夫 市長

務所の職員を情報連絡員とし
て、市の災害対策本部に派遣
する協定も進めています。市
が大変な状況なのに市の職員
がいちいち国に報告などして
いられませんものね。必要な

機材などもいち早く届けるこ
とが可能になると思います。
今後はより横断的な連携を
強化するためにも国と市役所
職員との人事交流などもでき
ればいいですね。

吉澤市長―市民の安心安全を
守る立場からとても心強く感
じています。「61年洪水」の
ときにも奇跡的に死者を出し
ませんでした。今後大災害が
発生しても的確な情報収集と
早めの避難指示で被害を最小
限に留めたいと考えています。
富岡所長―私は昨年4月にこ
の地に赴任してきましたが、
筑西市内には多くの川が流れ、